

株式会社サンプル 仕事と介護の両立実態調査

2022.8

アンケート結果報告書

目次

■ 目次	2		
■ 調査概要	3		
■ 回答者属性	4		
■ 所属	5		
■ サマリー・考察	6		
■ アンケート結果詳細	11		
■ 介護状況	12	■ 介護制度についての知識	23
・ 介護経験	13	・ 介護保険制度の被保険者ですか？	24
・ 介護相談相手	14	・ 知っている公的介護保険制度	25
・ 介護の可能性	15	・ 地域包括支援センターの認知状況	26
・ 介護を担う人	16	・ 会社の介護支援制度の認知状況	27
・ 介護の不安感	17	・ 介護休業についての認識	28
・ 介護の不安内容（男女別）	18	■ 職場のコミュニケーション	29
・ 介護の不安内容（年代別）	19	・ 上司とのコミュニケーション	30
・ 介護の不安内容（性別×年代別）	20	・ 職場の先輩・同僚とのコミュニケーション	31
・ 職場における介護相談ができる雰囲気の有無	21	・ 部下・後輩とのコミュニケーション	32
・ 介護時の望ましい働き方	22		

■ 調査目的

今後仕事と介護に関わる両立支援の検討を行う基礎資料を得る。

■ アンケート手法

インターネットを通して、アンケートフォームから回答。

■ アンケート期間

2022年 7月●日（月）～
7月●日（火）

■ アンケート対象者

サンプルグループ全社員

■ 総サンプル数

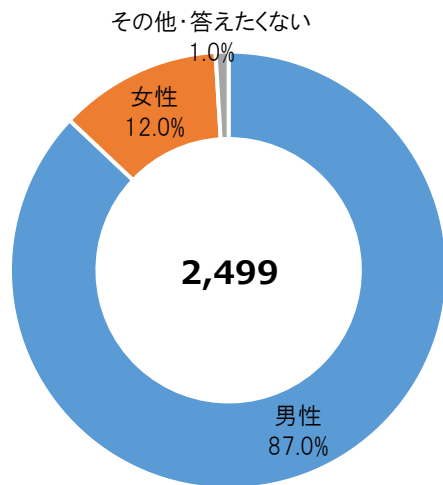
2,499
※回答率●%

■ 集計について

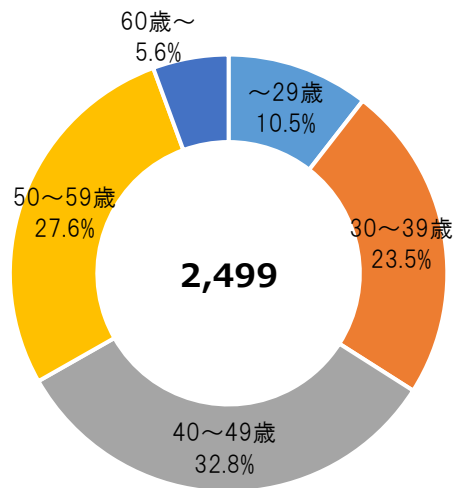
無回答は集計に含めない。

回答者属性

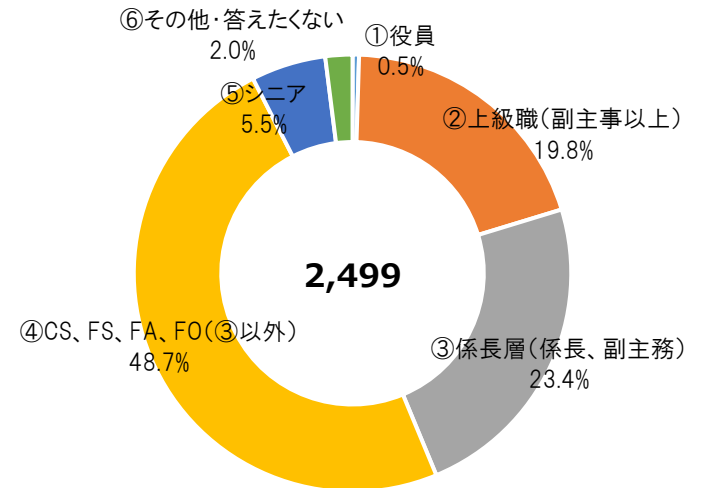
性別



年代構成



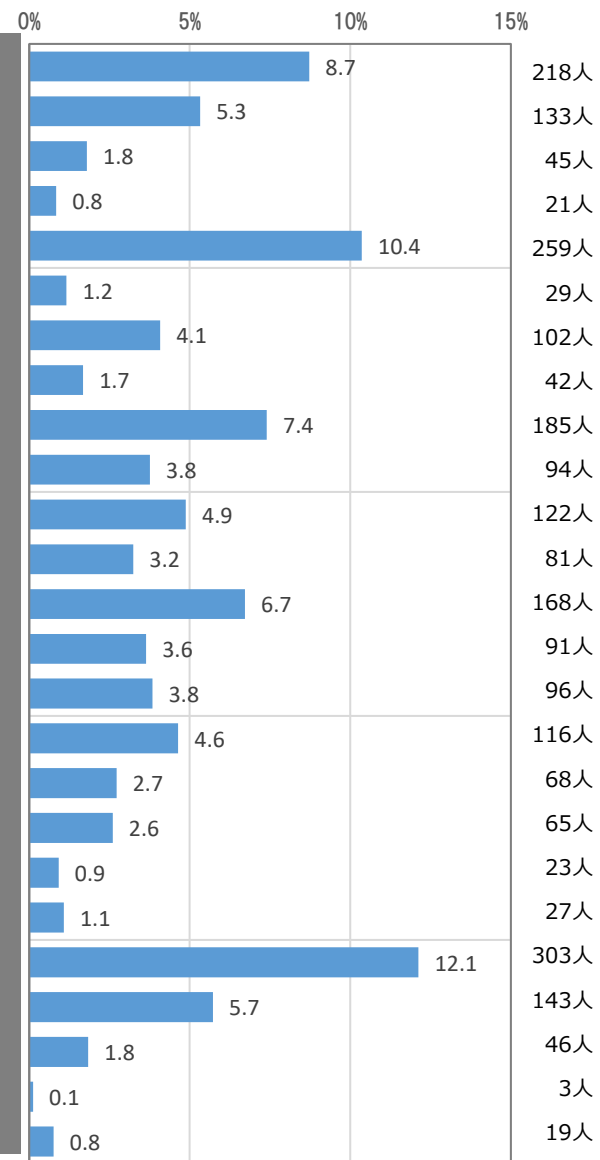
役職



所属

n=2,499

この部分に部署名が入ります



サマリー・考察

全体サマリー①

介護状況

介護経験者は14.9%

- ✓ 「現在、介護中」が5.9%、
「過去に介護をした経験あり」が9.0%。

介護中の約4割の人が、会社で介護相談していない

- ✓ 相談相手は、「同じ職場の上司」が26.5%でトップ。
次は「同じ職場の同僚・先輩」が18.4%。

現在介護をしていない人の約7割が、 今後5年以内に介護をする可能性がある

- ✓ 「介護をする可能性がかなり高い」が15.1%、
「可能性が少しある」が52.9%。

介護を担う人は「配偶者」（23.1%）がトップ。 2位は「自分」（21.8%）

- ✓ 以下「その他の親族」（21.2%）が続く。「わからない」も28.1%。

介護中または、介護の可能性のある人の95.5%が 介護に不安を感じている

- ✓ 「非常に不安」が36.6%、「不安」が37.8%、
「少し不安」が21.1%。

介護の不安内容1位は、 「公的介護保険制度の仕組みがわからない」（60.3%）

- ✓ 2位「介護がいつまで続くかわからず、
将来の見通しを立てにくい」（59.6%）、
3位「会社の介護にかかわる支援制度がない、
もしくはわからない」（53.3%）が続く。

介護について相談できる雰囲気職場にある、 と思っているのは36.1%に留まる

- ✓ 「ある」が36.1%、「ない」が16.6%、
「どちらともいえない」が47.3%。

介護時の望ましい働き方は「介護休業や介護のための短時間勤務などの支援制度を利用しつつ、できるだけ普通に働き続けながら、仕事と介護を両立する」が約6割

- ✓ 以下「わからない」（14.4%）、
「介護が必要な時期は休業制度を利用して自分が介護をして、
その後仕事に復帰する」（14.4%）が続く。

全体サマリー②

介護制度についての知識

自分が介護保険料を支払っているか、 「わからない」人が約4割

- ✓ 「被保険者である」が34.3%、「被保険者でない」が25.5%

約5割の人が 「知っている公的介護保険制度はない」と回答

- ✓ 最も知られているものは「要介護の認定基準には『要支援』と『要介護』があること」の35.5%。

地域包括支援センターの利用方法を知らない人が9割強

- ✓ 内訳は「名称も利用方法も知らない」が76.5%、「名称について聞いたことがあるが、利用方法は知らない」が16.8%。

会社の介護支援制度があるか知らない人が約6割

- ✓ 「あるかどうか知らない」(59.1%)、「制度はない」(1.5%)。

介護休業についての考え方は、専念型が両立型を上回る

- ✓ 「介護休業期間は主に仕事を続けながら介護をするための体制を構築する期間である」と「その考えに近い」の合算値が37.2%、「介護休業期間は介護に専念するための期間である」と「その考えに近い」の合算値が40.5%。

職場のコミュニケーション

上司とのコミュニケーションが円滑と回答した人が約8割

- ✓ 内訳は「そう思う」が28.8%、「ややそう思う」が49.3%。

職場の先輩・同僚とのコミュニケーションが円滑と 回答した人が約8割

- ✓ 内訳は「そう思う」が29.5%、「ややそう思う」が54.0%。

部下・後輩とのコミュニケーションが円滑と 回答した人が約8割

- ✓ 内訳は「そう思う」が26.0%、「ややそう思う」が57.1%。

全体サマリーまとめ

ポイント1

現在介護をしていない人の約7割が「5年以内に介護をする可能性がある」と答えており、そのうちの約95%が介護についての不安を感じている。

ポイント2

不安の内訳は「公的介護保険制度の仕組みがわからない」（60.3%）、
「介護がいつまで続くかわからず、将来の見通しを立てにくい」（59.6%）、
「会社の介護にかかわる支援制度がない、もしくはわからない」（53.3%）など、
情報不足、知識不足から来るものが上位を占めている。

ポイント3

「介護休業や介護のための短時間勤務などの支援制度を利用しつつ、
できるだけ普通に働き続けながら、仕事と介護を両立したい」人が6割以上いる一方、
「会社の介護支援制度があるか知らない人」も6割以上に上る。

ポイント4

上司、先輩や同僚、後輩とのコミュニケーションが良好と回答する人が8割ほどいる一方、
「職場で介護についての相談ができる」は36%に留まる。

性別 & 年代別の課題

性別による課題

① 男性社員について

介護経験のある人のうち、男性の44.3%、女性の18.8%が職場内で相談していない。
また、女性の62.5%は上司に一番相談しているのに対し、**男性は22.1%にとどまる。**
→**男性が介護をしているか、悩んでいるかなどは、上司から見えにくい。**

② 女性社員について

- ・ 将来の介護の可能性については、男女差はない。
ただし、女性の方が40代で介護がはじまる可能性が高い（女性40代26.9% > 男性40代13.1%）。
 - ・ 男女ともに世帯（自分か配偶者）として主な介護者になる割合が40%を超える。
特に**女性は、自分がメインの介護者になる割合が38.4%。**
なかでも40代では、女性48.1% > 男性17.9%となっている。
 - ・ 女性の方が強い不安を感じている割合が高い
（非常に強い不安を感じている割合は女性46.2% > 男性35.3%）。
 - ・ 女性の方が**介護休業 = 自分で介護をするための休業、と捉えている割合が高い**
（女性49.7% > 男性39.3%）。
- 女性は40代で介護を抱える可能性が男性より高く、また、メインの介護者となる可能性も高く、「自分で介護をする」という意識も強い。
また、不安も男性よりも強い。**早めに介護に関する情報や準備が必要となる可能性がある。**

年代による課題

- ・ 特に60代男性では、18.2%が介護が始まったら「**今の仕事をやめて介護に専念**」と回答。
→ **60代のシニアが多い事業所で、介護による離職防止のための対策が必要となる可能性がある。**

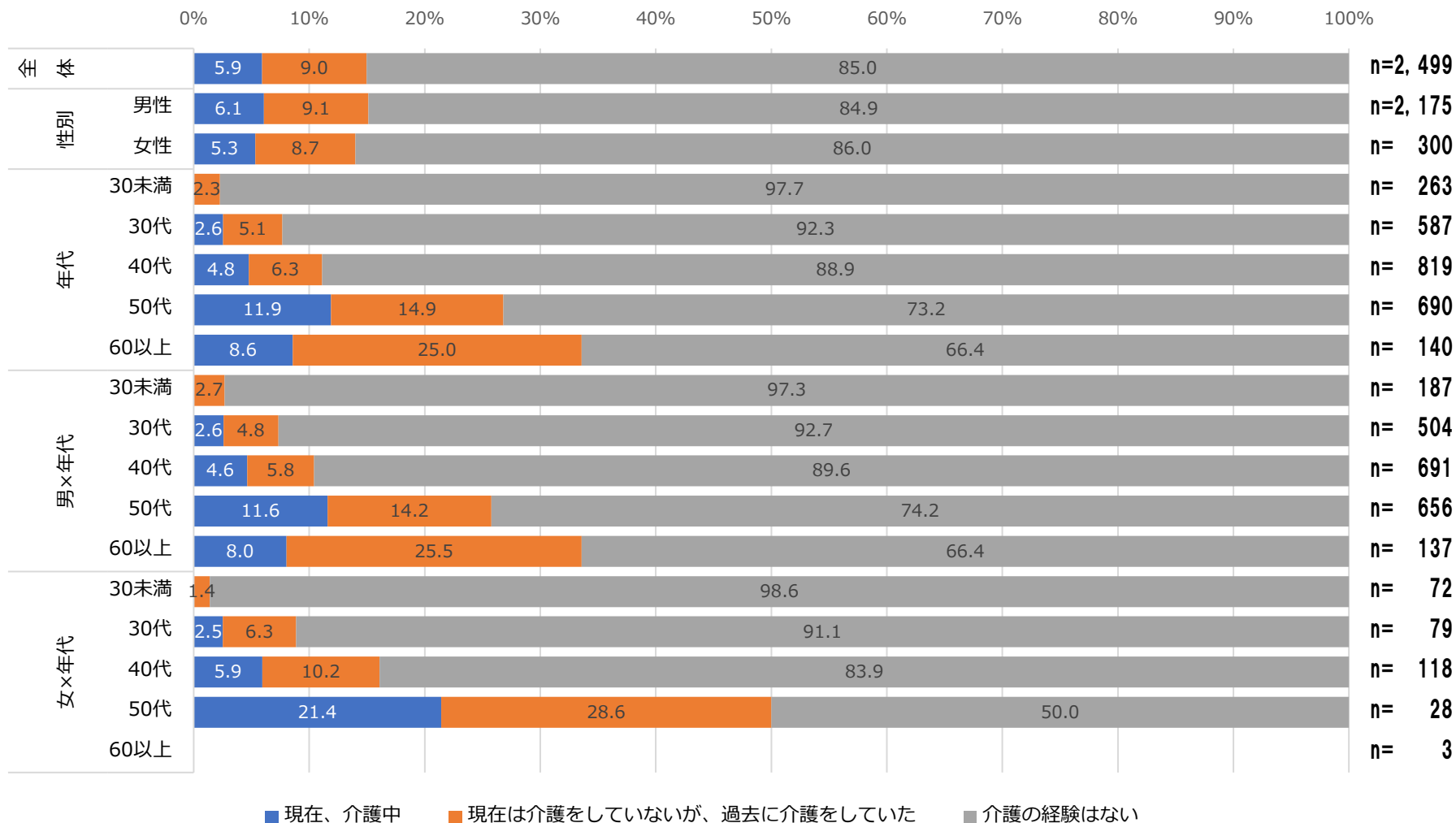
アンケート結果詳細

介護状況

介護経験

- 「介護の経験はない」が最も多く、85.0%。以下、「現在は介護をしていないが、過去に介護をしていた」(9.0%)、「現在、介護中」(5.9%)と続く。
- 性別による差はあまり見られない。
- 性別・年代別に見ると、男性は50代になると介護経験が高くなる(25.8%)。女性は40代での介護経験が男性より高く、50代になると50%が介護を経験済み。

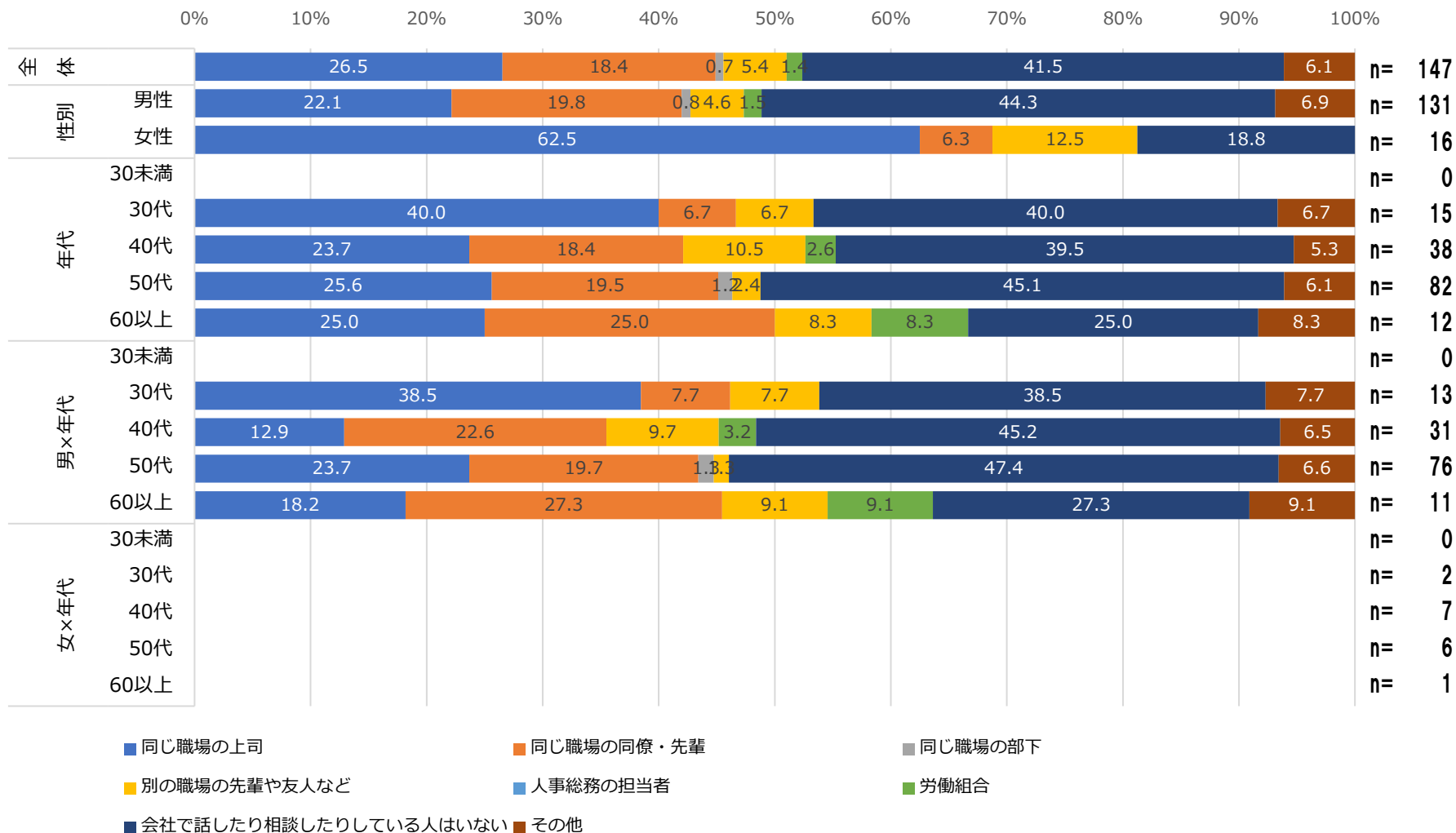
Q1. すべての方に伺います。あなたの介護経験をお教えてください。



介護相談相手

- 「会社で話したり相談したりしている人はいない」が41.5%でトップ。以下「同じ職場の上司」（26.5%）、「同じ職場の同僚・先輩」（18.4%）と続く。
- 性別で見ると、介護経験のある人のうち、男性の44.3%、女性の18.8%が職場内で相談していない。
また、女性の62.5%は上司に一番相談しているのに対し、男性は22.1%にとどまる。

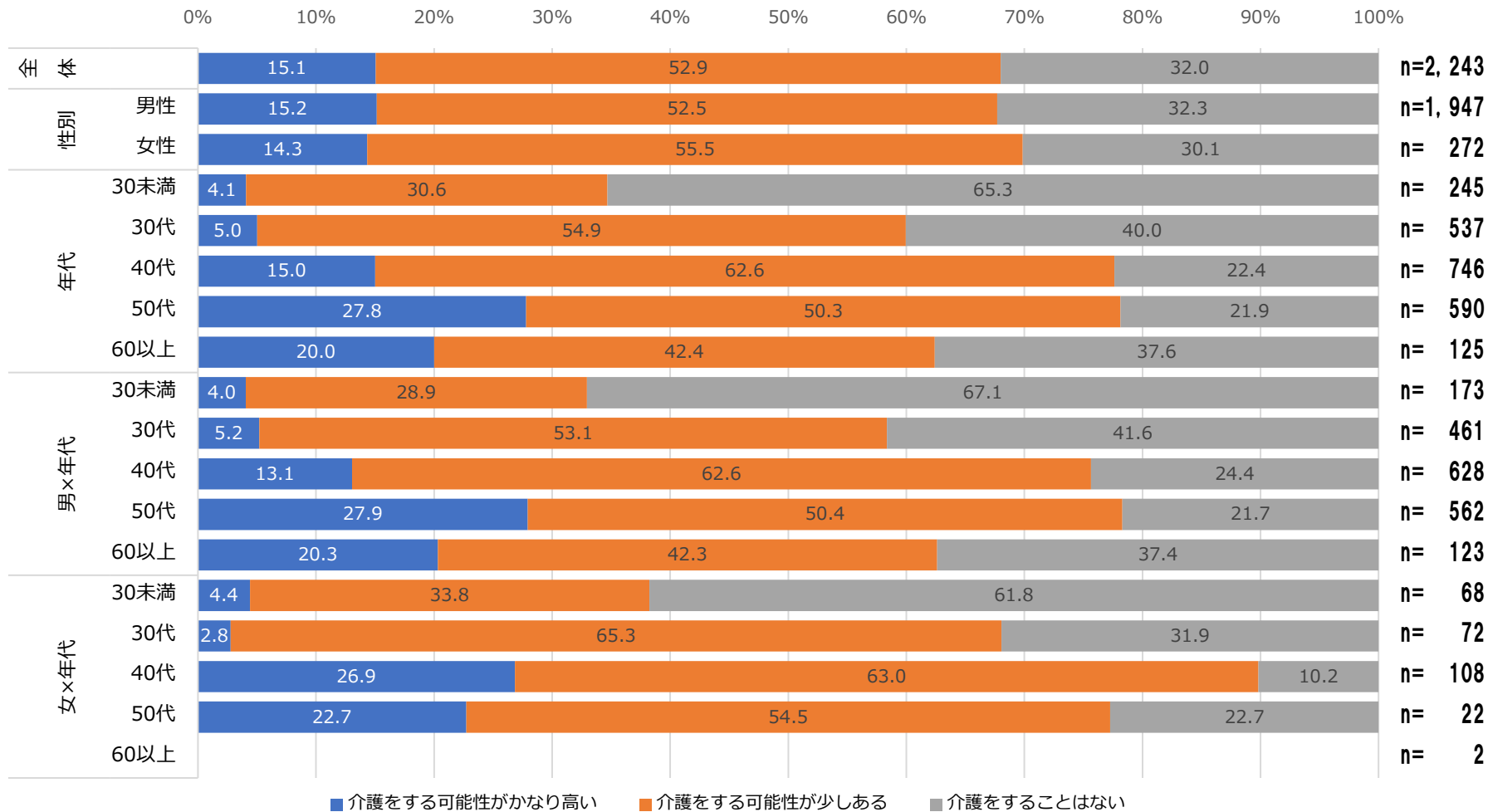
Q2.「現在、介護中」の方に伺います。あなたは、ご自分が介護に関わっていることを、会社で話したり相談したりしていますか？最も、話したり相談する方についてお答えください。



介護の可能性

- 68.0% が介護をする可能性があると回答
（「介護をする可能性がかなり高い」（15.1%）と「介護をする可能性が少しある」（52.9%）の合計値）。
- 性別に見ると、将来の介護の可能性については、男女差はない。ただし、女性は40代で介護がはじまる可能性が男性よりも高い
（女性40代26.9%>男性40代13.1%）。

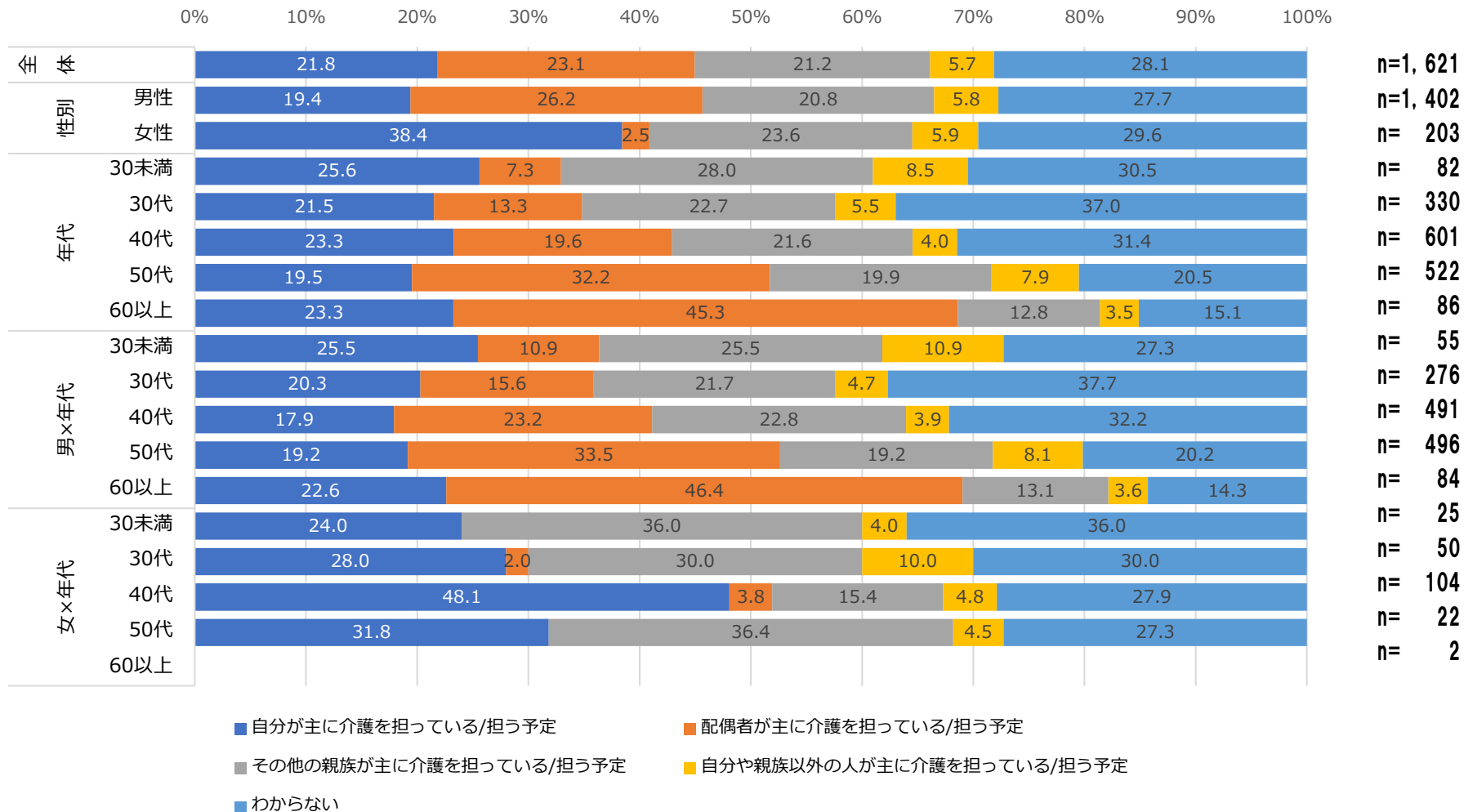
Q3.「現在は介護をしていないが、過去介護をしていた」「介護の経験はない」方に伺います。あなたは今後5年間のうちに、ご家族・親族を介護する可能性はありますか。



介護を担う人

- 介護を担う人は「わからない」が28.1%で最多。以下「配偶者」(23.1%)、「自分」(21.8%)、「その他の親族」(21.2%)と続く。
- 性別に見ると、男女ともに世帯(自分か配偶者)として主な介護者になる割合が40%を超える。特に女性は、自分がメインの介護者になる割合が38.4%、中でも40代女性は48.1%となっている。
- 年代別に見ると、年代が上がるほど「配偶者」の比率が高くなり、年代が下がるほど「わからない」の比率が上がる。

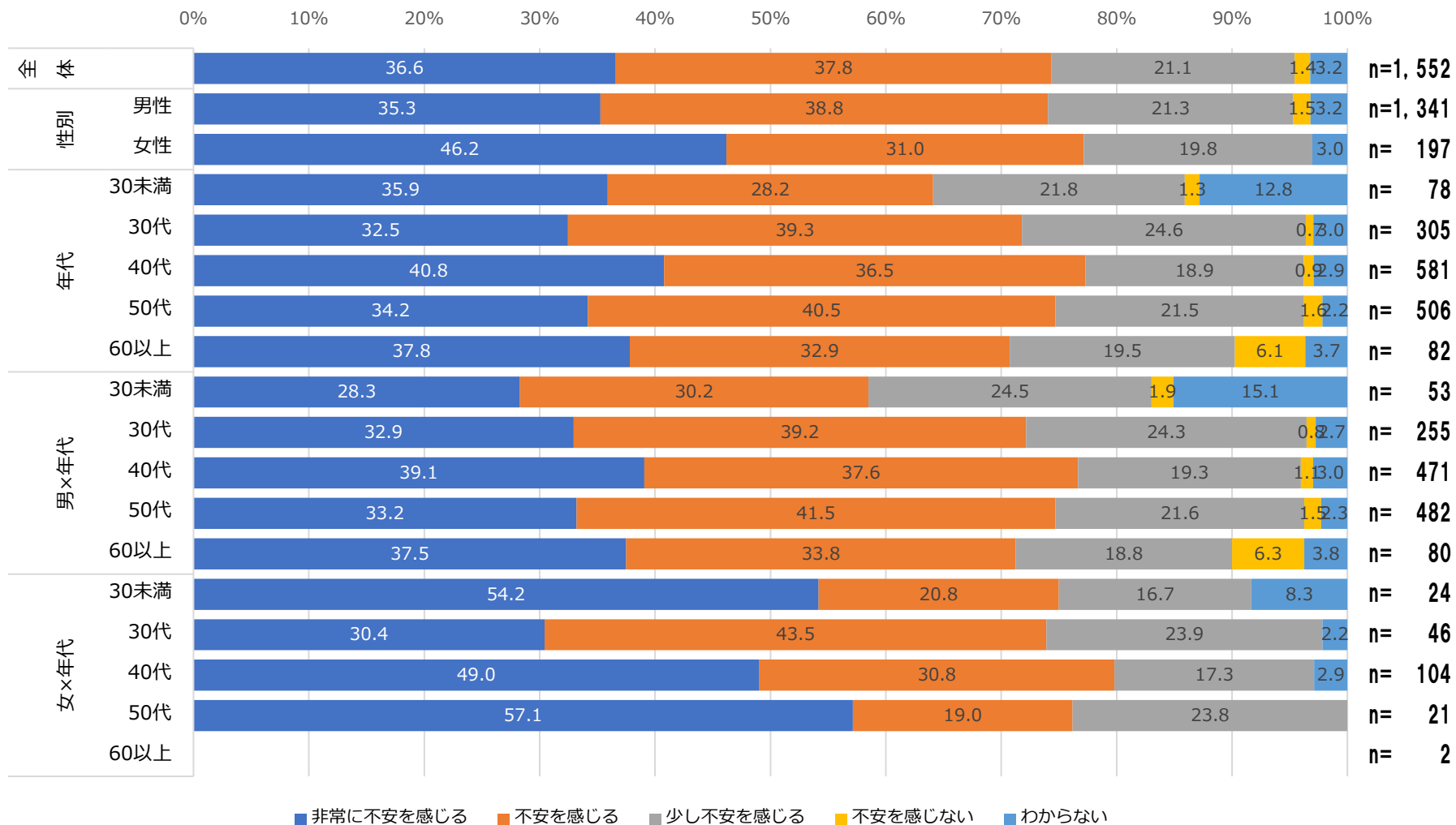
Q4.「現在、介護中」の方、今後介護をする可能性が「かなり高い」「少しある」と回答された方に伺います。主に介護を担っている/担う可能性があるのは、どなたですか？



介護の不安感

- 95.4%が「不安を感じる」と回答
（「非常に不安を感じる」（36.6%）、「不安を感じる」（37.8%）と「少し不安を感じる」（21.1%）の合計値）。
- 性別では、女性の方が強い不安を感じている割合が高い（女性46.2%>男性35.3%）。

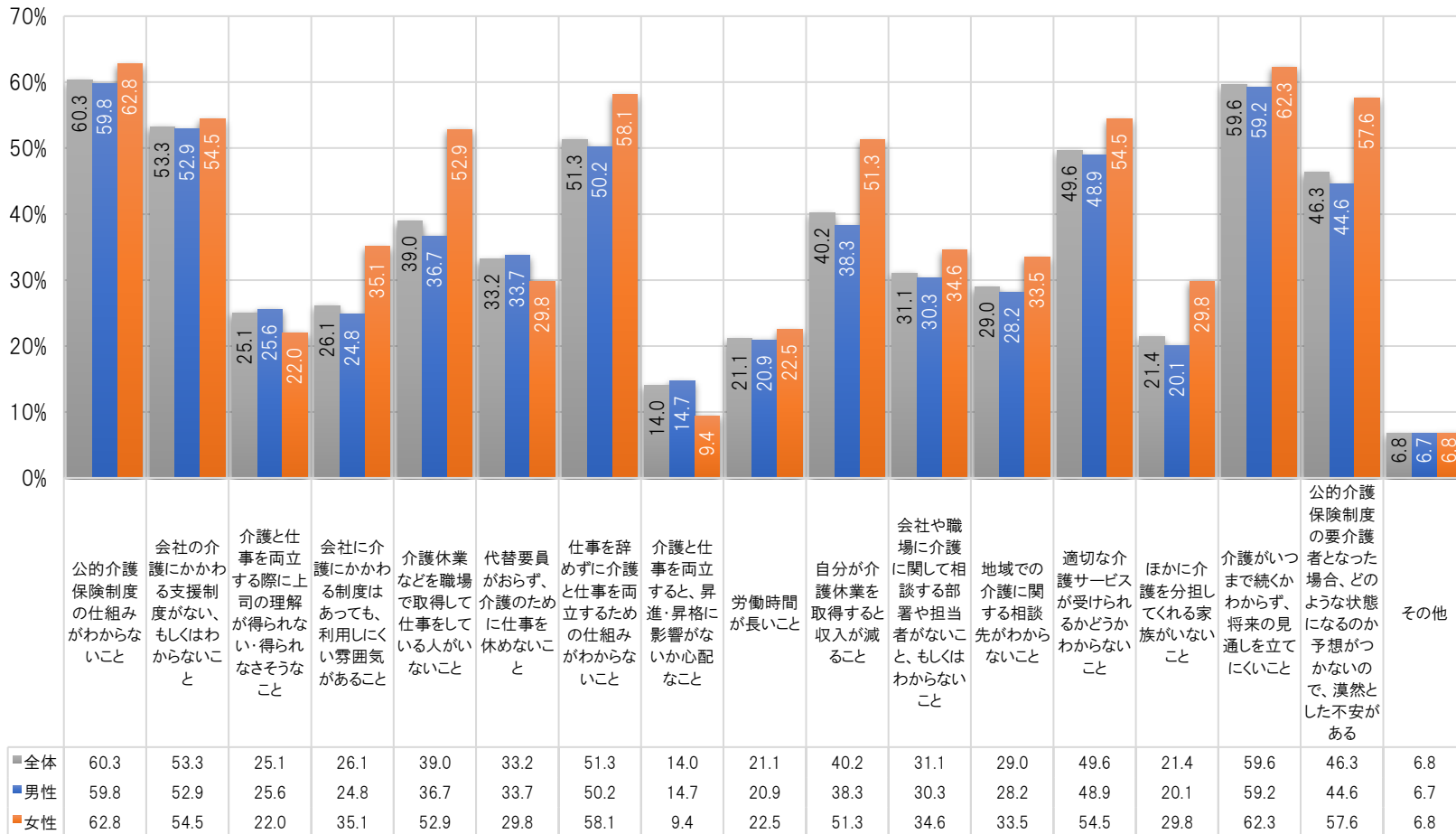
Q5.「現在、介護中」の方、今後介護をする可能性が「かなり高い」「少しある」と回答された方に伺います。介護について、どの程度の不安を感じますか。



介護の不安内容（男女別）

- 「公的介護保険制度の仕組みがわからないこと」が60.3%で1位。以下「介護がいつまで続くかわからず、将来の見通しを立てにくいこと」（59.6%）、「会社の介護にかかわる支援制度がない、もしくはわからないこと」（53.3%）と続く。
- 男女別で、10ポイント以上の差が出る項目は、4項目すべて女性が男性よりも強く不安を感じている。
 - ・ 「会社に介護にかかわる制度はあっても、利用しにくい雰囲気があること」「介護休業などを職場で取得して仕事をしている人がいないこと」「自分が介護休業を取得すると収入が減ること」「公的介護保険制度の要介護者となった場合、どのような状態になるのか予想がつかないこと」

Q6.前問で「非常に不安を感じる」「不安を感じる」「少し不安を感じる」のいずれかに回答した方に伺います。介護に関する不安は、具体的にどのような不安ですか。該当するものすべてをお選びください。

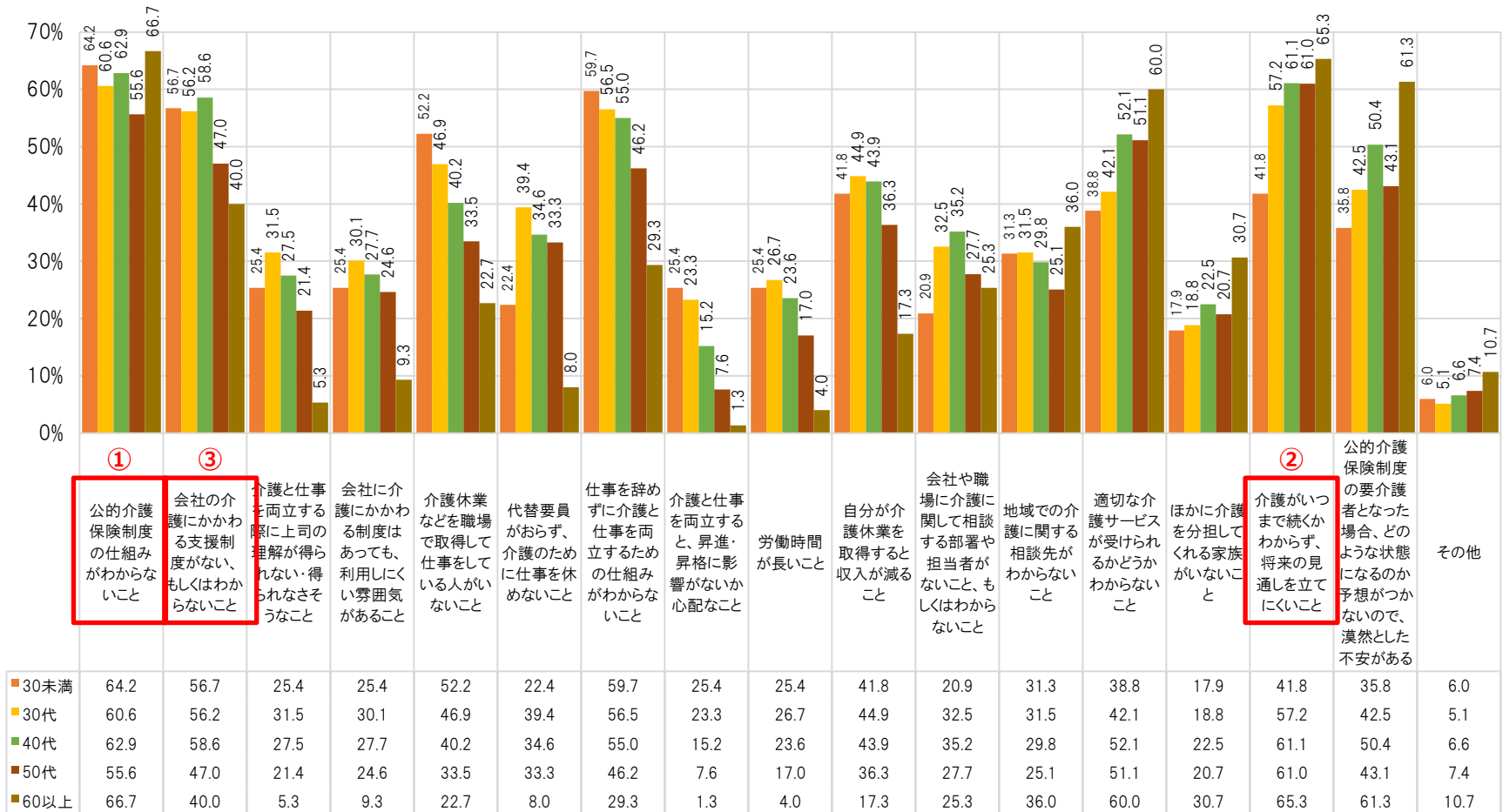


n=1,481
n=1,278
n=191

介護の不安内容（年代別）

- ①「公的介護保険制度の仕組みがわからない」→年代による差がなく高い。
- ②「介護がいつまで続くかわからず、将来の見通しを立てにくい」→年齢が高くなるほど、不安に思う人が多くなる。
- ③「会社の介護にかかわる支援制度がない、もしくはわからない」→50～60代では他の年代に比べて低い傾向があるが、それでも40%以上が不安を感じている。

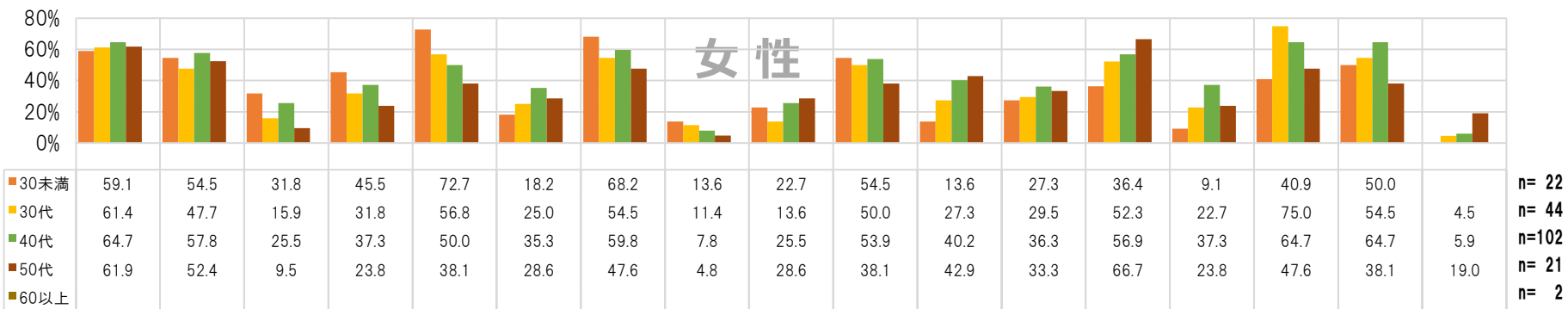
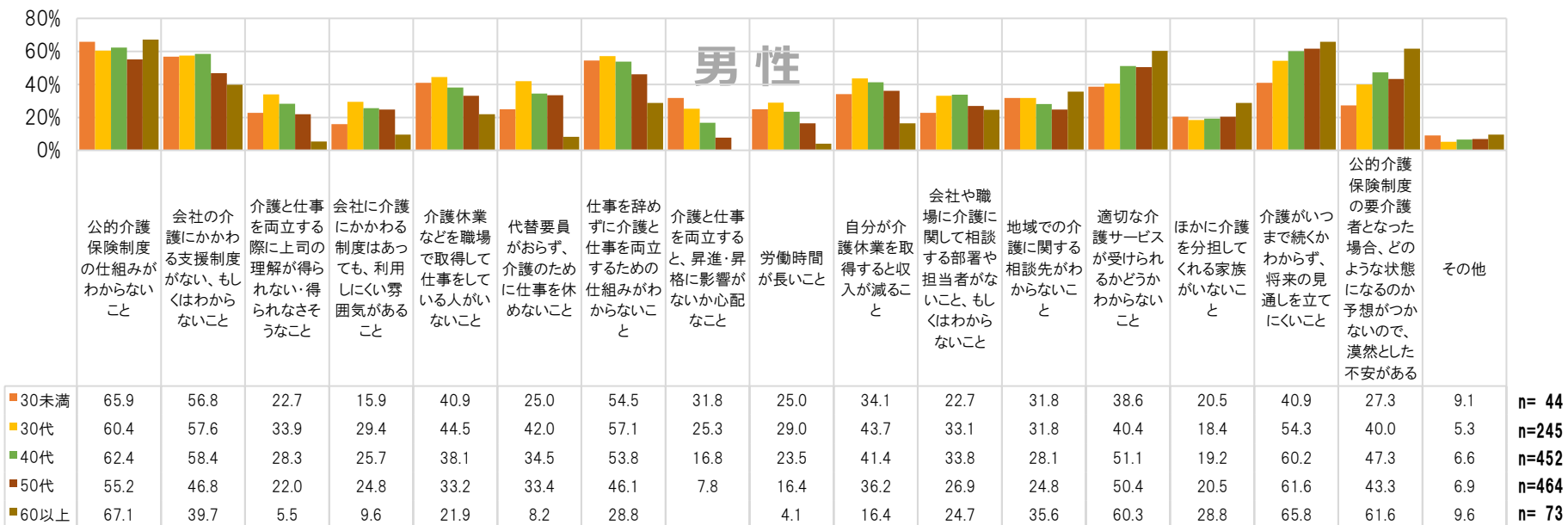
Q6.前問で「非常に不安を感じる」「不安を感じる」「少し不安を感じる」のいずれかに回答した方に伺います。介護に関する不安は、具体的にどのような不安ですか。該当するものすべてをお選びください。



n= 67
n=292
n=560
n=487
n= 75

介護の不安内容（性別×年代別）

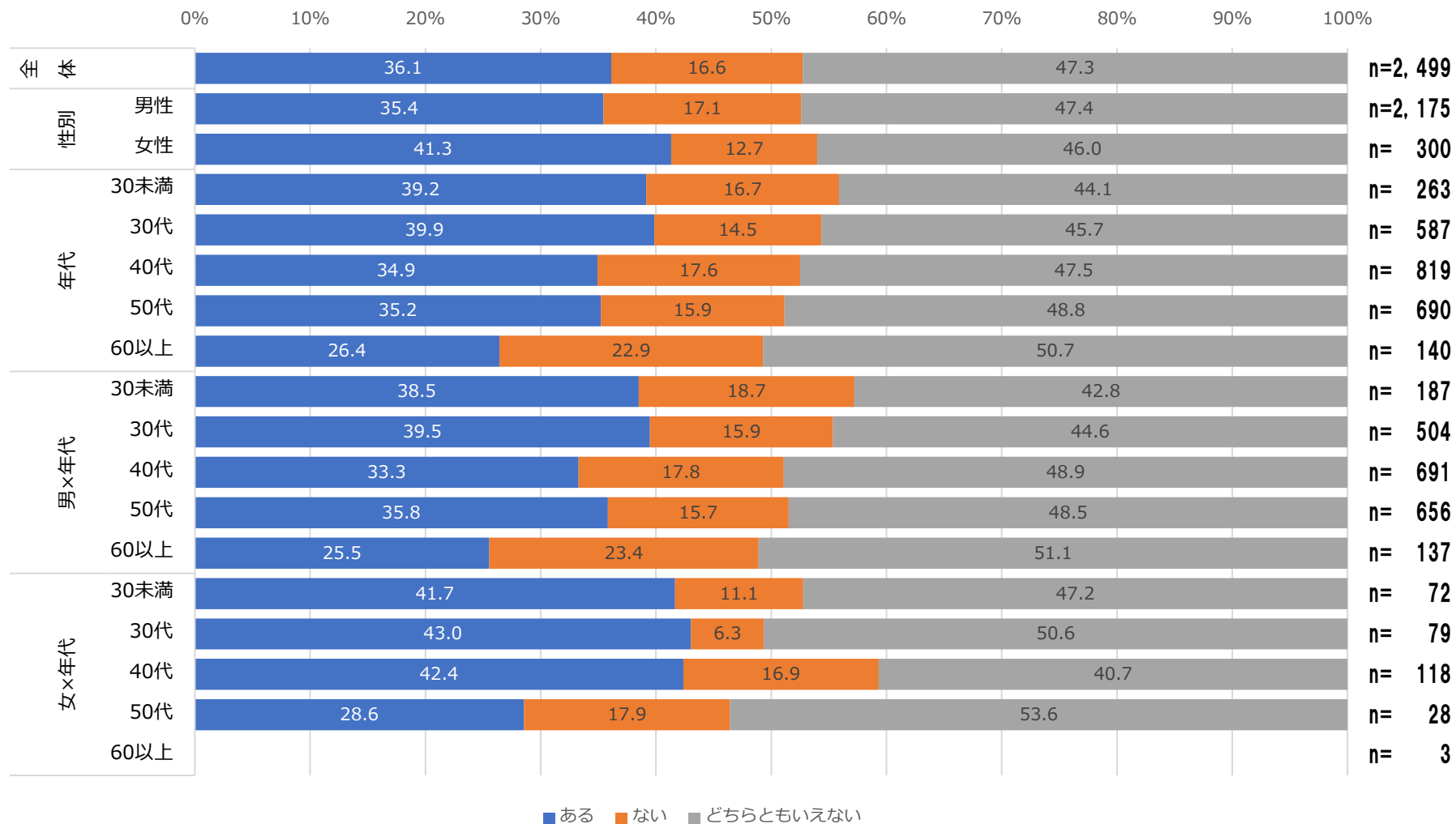
Q6.前問で「非常に不安を感じる」「不安を感じる」「少し不安を感じる」のいずれかに回答した方に伺います。介護に関する不安は、具体的にどのような不安ですか。該当するものすべてをお選びください。



職場における介護相談ができる雰囲気の有無

- 職場で介護ができる雰囲気が「ある」と答えた人は36.1%にとどまる。「ない」が16.6%、「どちらともいえない」が47.3%。
- 性別で見ると、女性の方が相談できる雰囲気があると回答する割合が高い（女性41.3%>男性35.4%）。
- 年代別には、あまり大きな差異は見られない。

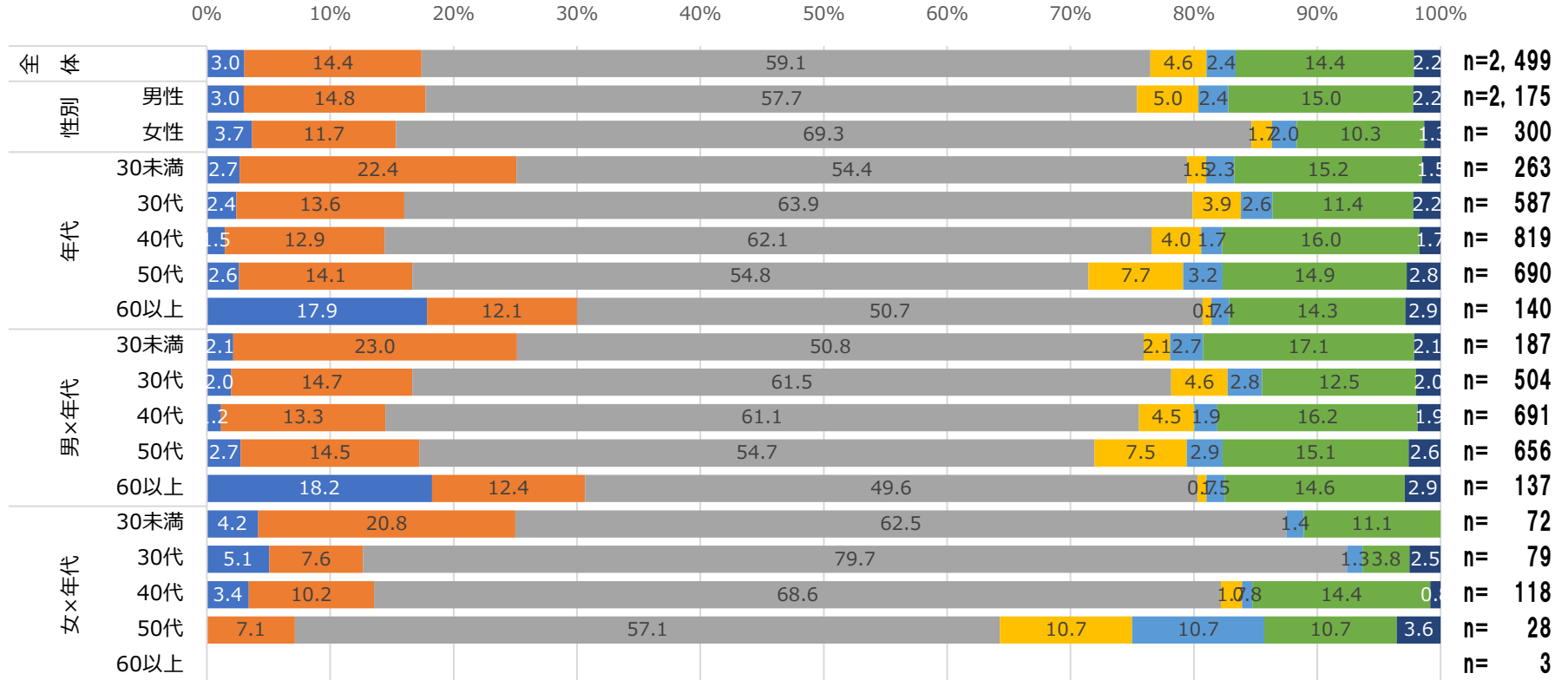
Q7. すべての方に伺います。介護のことについて、職場の上司や同僚に話したり、相談したりすることができる雰囲気が、職場にありますか。



介護時の望ましい働き方

- 介護時の望ましい働き方は、「介護休業や介護のための短時間勤務などの支援制度を利用しつつ、できるだけ普通に働き続けながら、仕事と介護を両立する」が59.1%で最も高い。
以下「わからない」（14.4%）、「介護が必要な時期は休業制度を利用して自分が介護をして、その後仕事に復帰する」（14.4%）が続く。
- 男女問わず、3%以上が「今の仕事をやめて介護に専念」が回答。
- 特に60代男性では、18.2%が介護が始まったら「今の仕事をやめて介護に専念」と回答。

Q8. すべての方に伺います。あなたが介護をすることになった場合、どのような働き方が望ましいと思いますか。将来介護をすることがないと思う方もお答えください。



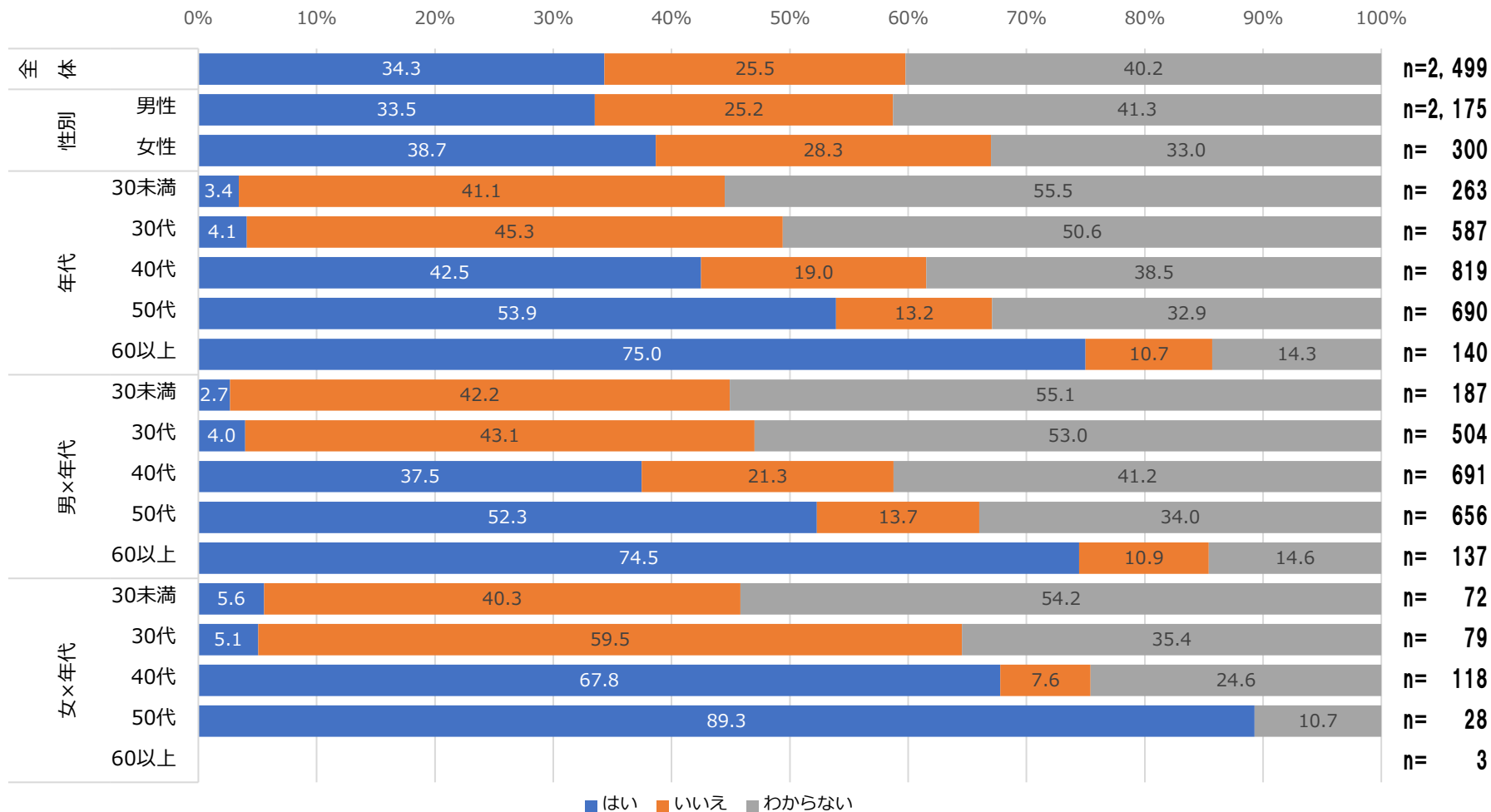
- 今の仕事を辞めて介護に専念する
- 介護が必要な時期は休業制度を利用して自分が介護をして、その後仕事に復帰する
- 介護休業や介護のための短時間勤務などの支援制度を利用しつつ、できるだけ普通に働き続けながら、仕事と介護を両立する
- 介護のための支援制度を利用せずに、年次有給休暇などで対処する
- 仕事の仕方を特に変えない
- わからない
- その他

介護制度についての知識

介護保険制度の被保険者ですか？

- 介護保険料を払っているか「わからない」人が40.2%。
- 性別には、男性の方が「わからない」比率が高い（男性41.3%＞女性33.0%）。
- 年代別には、40代、30代、30代未満で正しく回答できる比率は、半数未満。50代でも正しく回答できる比率は、53.9%にとどまる。

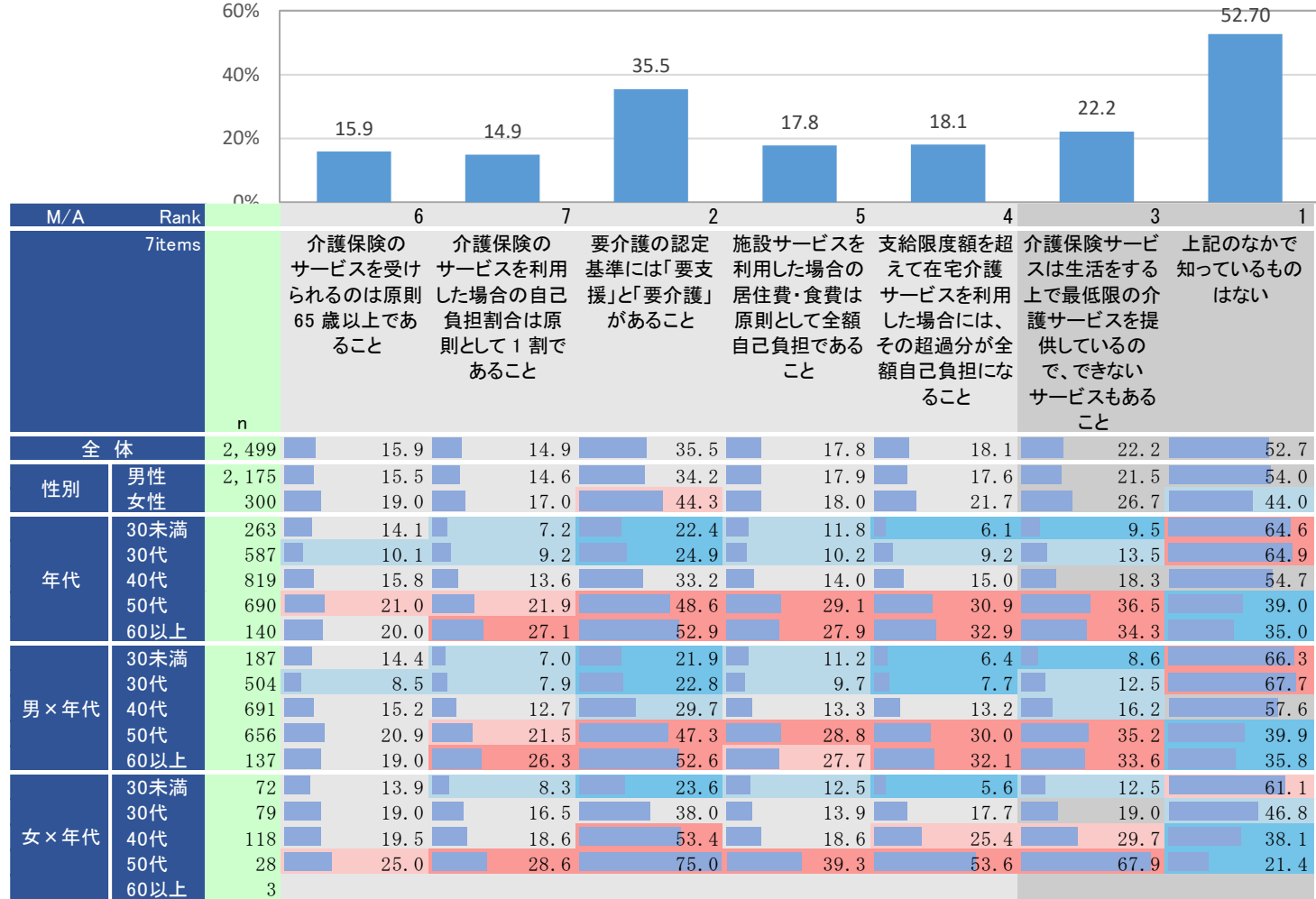
Q9.あなたは、公的介護保険制度の被保険者ですか（介護保険料を支払っていますか）。



知っている公的介護保険制度

- 知っている公的介護保険制度は、「知っているものはない」が52.7%で最も高い。
- 「要介護の認定基準には「要支援」と「要介護」があること」が、35.5%で最も知られている。
次いで「介護保険サービスは生活をする上で最低限の介護サービスを提供しているの、できないサービスもあること」が22.2%。
- 性別に見ると、男女とも「知っているものはない」が最も高い。
- 年代別で見ても、40代、30代、30未満は、「知っているものは何もない」が過半数。50代であっても、「知っているものはない」が最も高い。

Q10.あなたは、公的介護保険制度のことでご存知ですか。知っている内容すべてをお選びください。

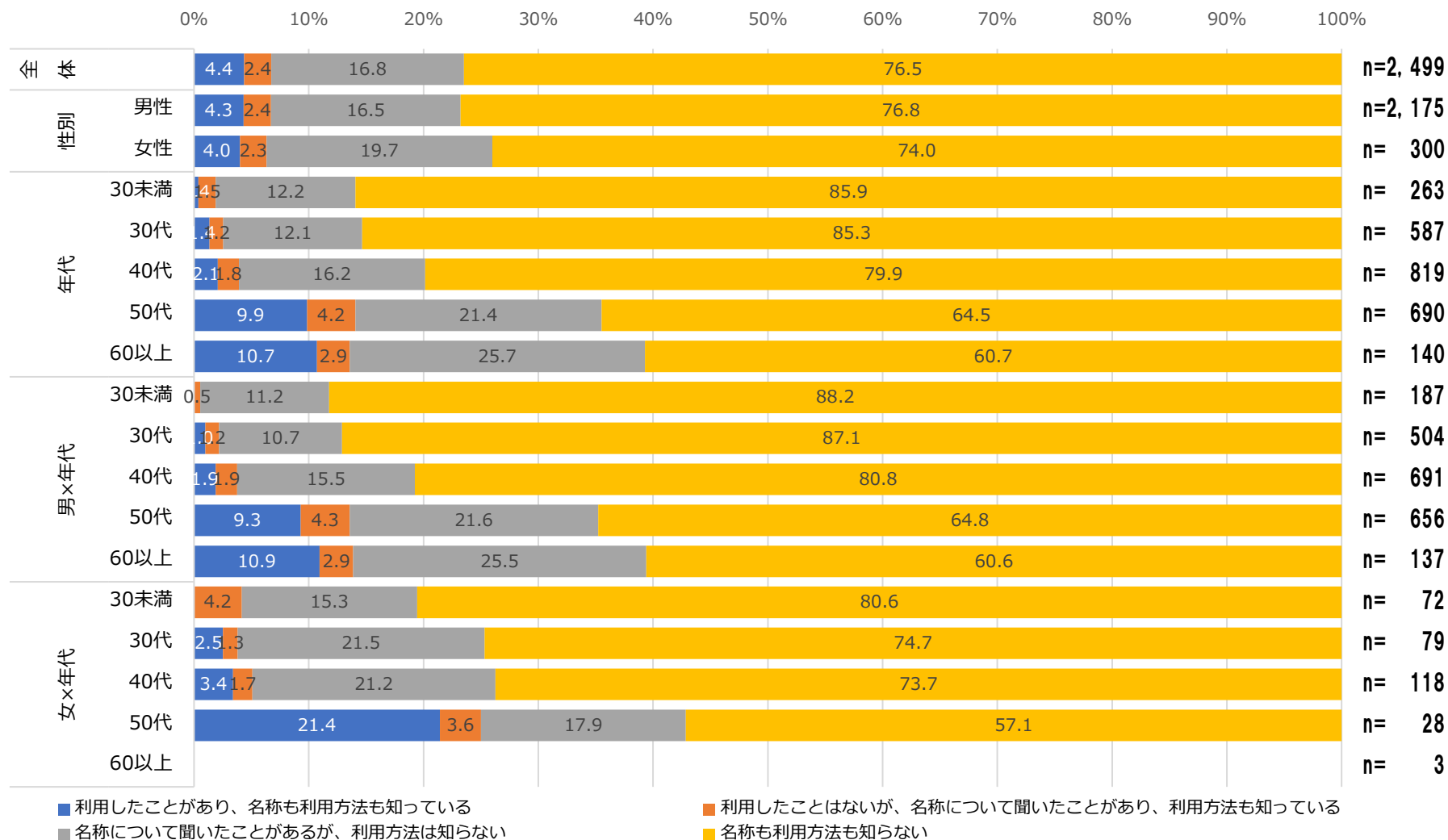


※周辺度数10以上で色分け 全体の%より、-10pt以下 -5pt以下 +5pt以上 +10pt以上

地域包括支援センターの認知状況

- 「名称も利用方法も知らない」が76.5%で、ほとんど知られていない状態。
- 性別による差はない。
- 年代別には、50代、60代であっても「名前も利用方法も知らない」が60%以上。

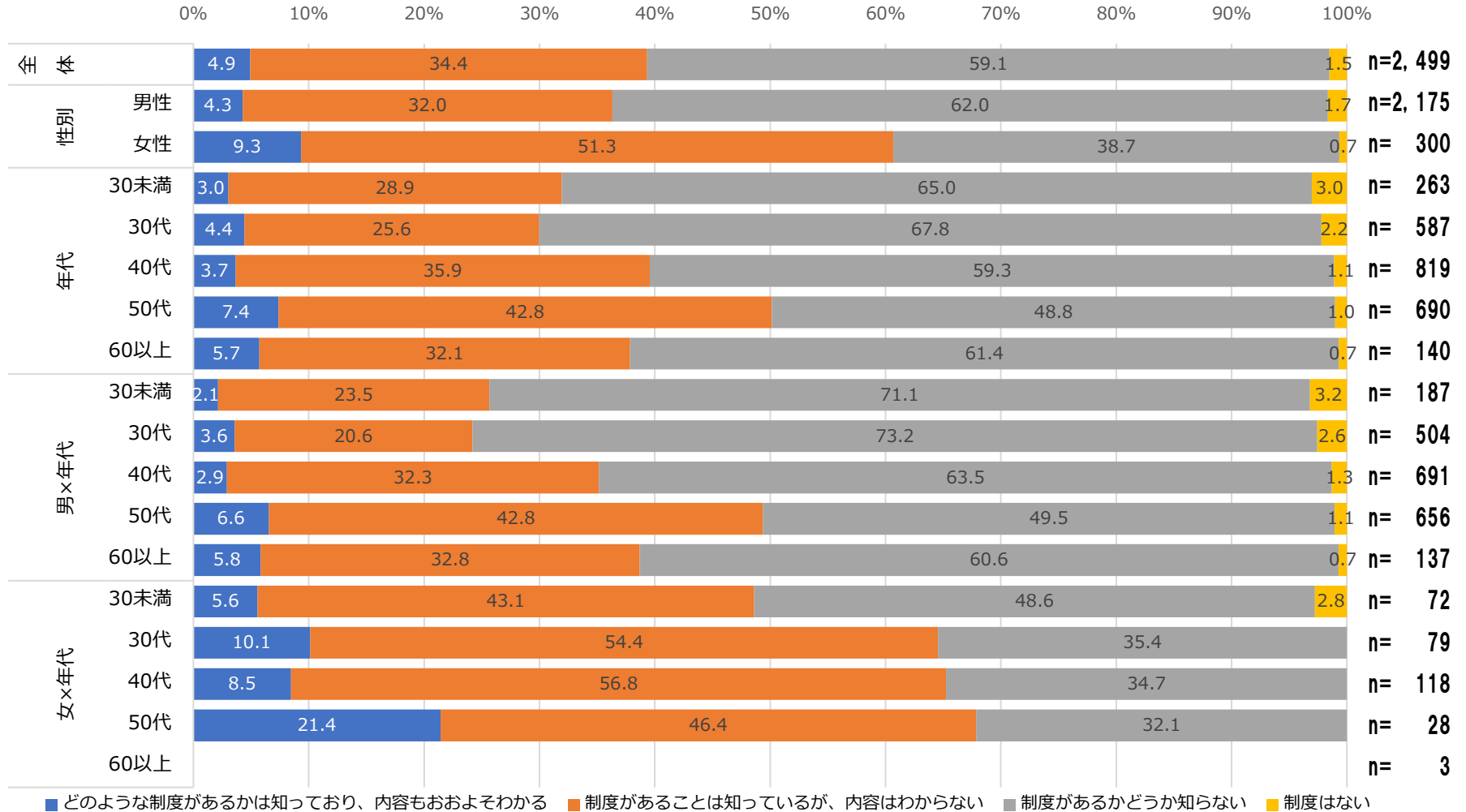
Q11.あなたは、地域包括支援センターのことについてご存じですか。



会社の介護支援制度の認知状況

- 「制度があるかどうか知らない」が59.1%でトップ。「制度はない」(1.5%)との合算値は、60.7%。
- 性別に見ると、「制度があるかどうか知らない」と回答する割合が、女性(38.7%)に比べ、男性が62.0%と、介護支援制度について認知の性別差が大きい。
- 年代別に見ると、50代でも「制度があるかどうか知らない」と回答した人が48.8%と最も多い。

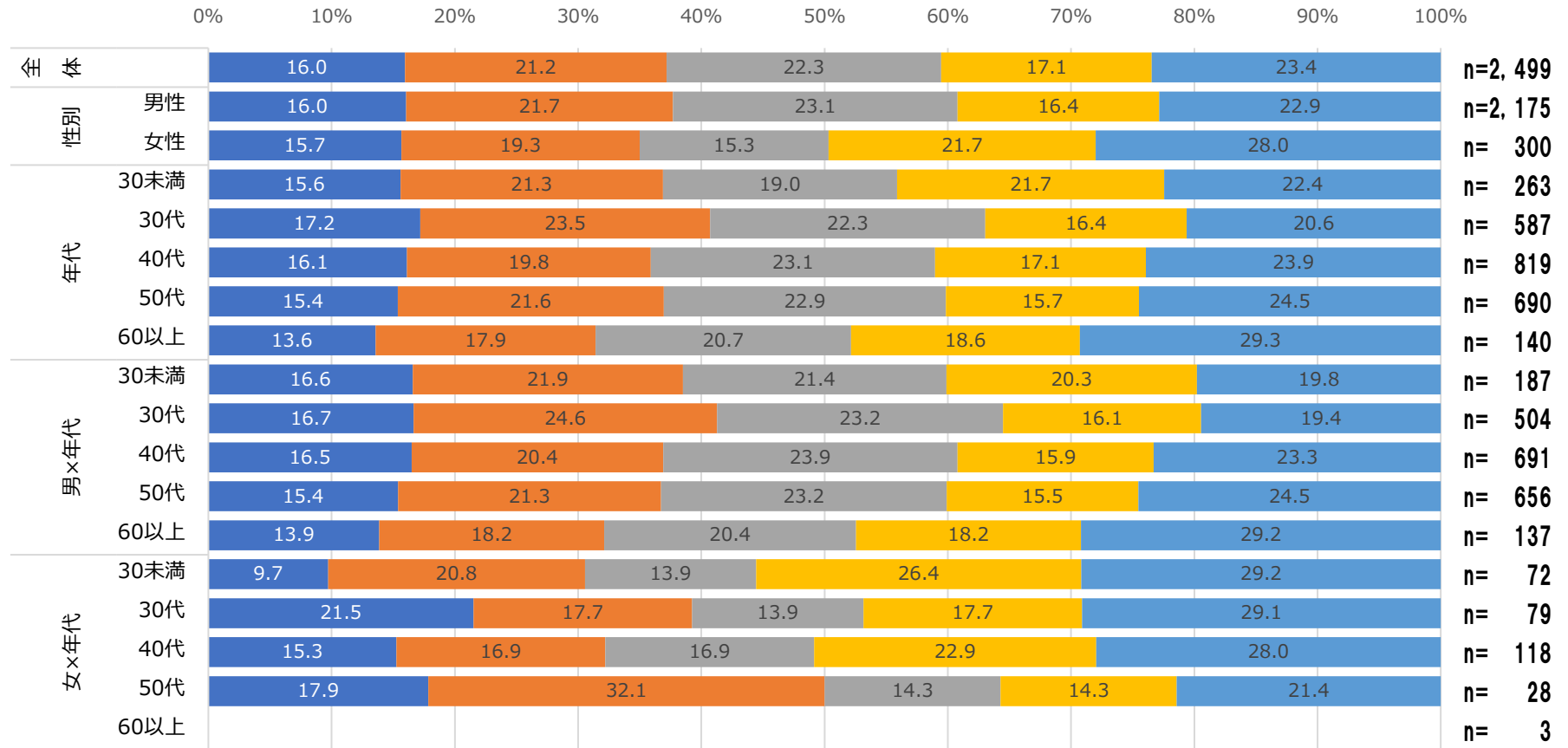
Q12.会社の介護に関する支援制度について、どの程度知っていますか。



介護休業についての認識

- 「介護休業期間は主に仕事を続けながら介護をするための体制を構築する期間である」(16.0%)と「その考えに近い」(21.2%)の合計値が、37.2%。一方「介護休業期間は介護に専念するための期間である」(23.4%)と「その考えに近い」(17.1%)の合計値が40.5%で、二つの考え方の差は3.3ポイント(40.5-37.2)。「どちらともいえない」は22.3%。
- 性別に見ると、女性の方が自分で介護をするための専念する期間と認識している割合が高い(女性49.7%>男性39.3%)。

Q13.介護休業に対するあなたの考え方をお聞きします。あなたの考えに最も近いものをお選びください。



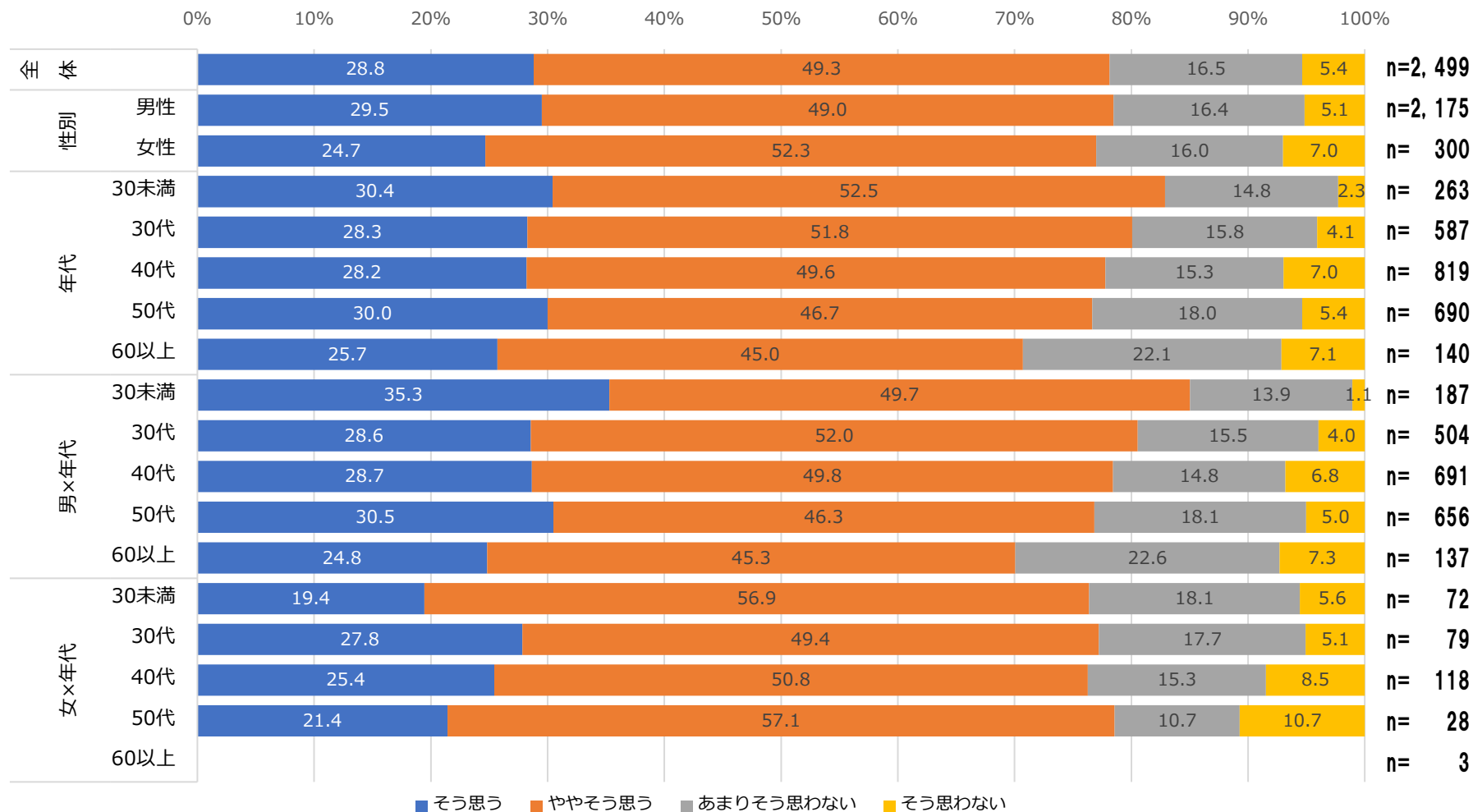
- ①介護休業期間は主に仕事を続けながら介護をするための体制を構築する期間である
- ②どちらかという①に近い
- ③どちらともいえない
- ④どちらかという⑤に近い
- ⑤介護休業期間は介護に専念するための期間である

職場のコミュニケーション

上司とのコミュニケーション

- 上司とのコミュニケーション円滑具合は、「そう思う」(28.8%)と「ややそう思う」(49.3%)との合計値が、78.2%。一方「そう思わない」(5.4%)と「あまりそう思わない」(16.5%)の合計値が21.8%で、円滑に思う方が56.4ポイント上回った。
- 性別による差はあまり見られない。
- 男性を年代別に見ると、年代が上がるにつれ、コミュニケーションが円滑だと思わない比率が増える。

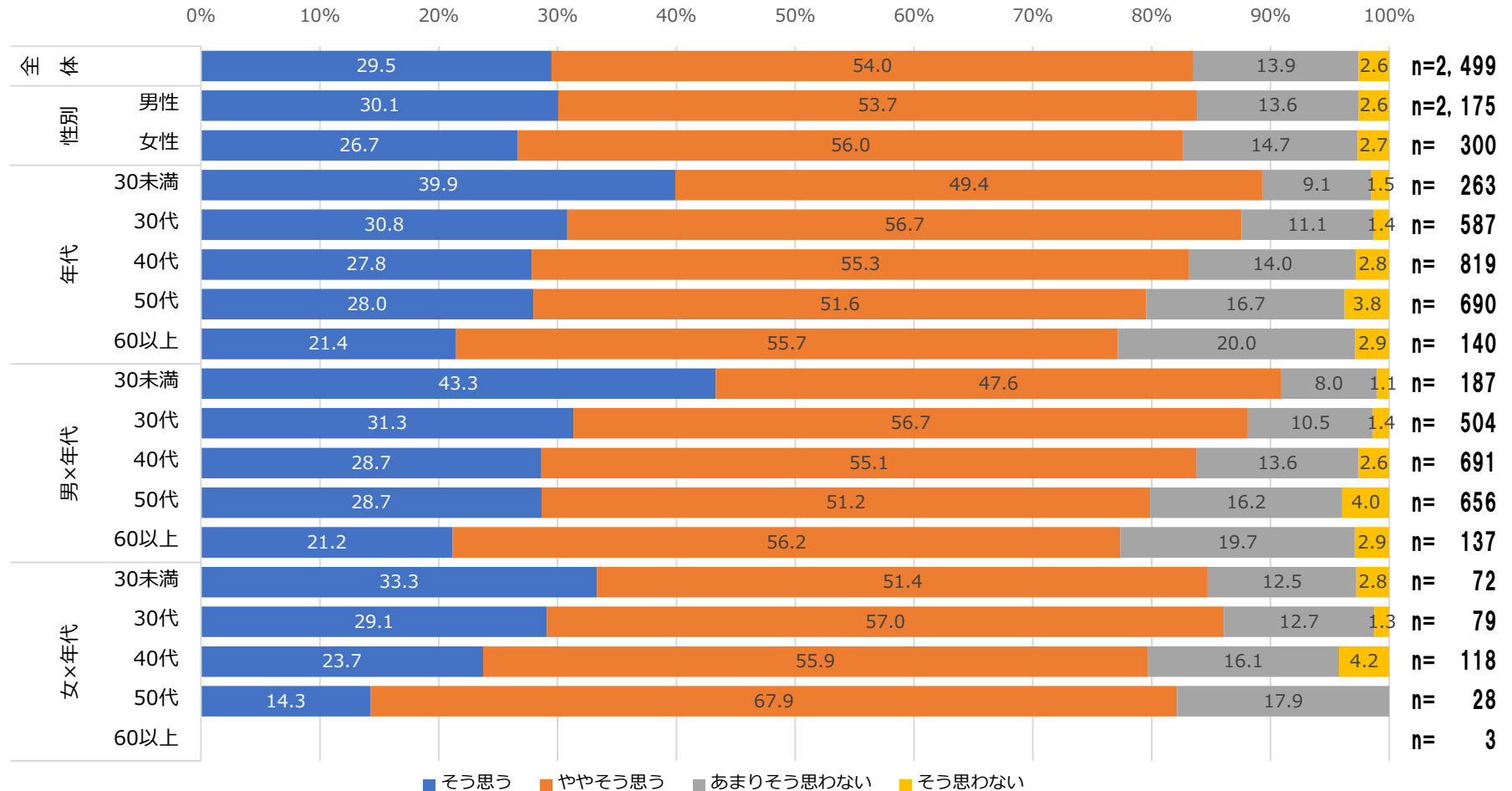
Q14.あなたと上司とのコミュニケーションは円滑ですか？



職場の先輩・同僚とのコミュニケーション

- 職場の先輩・同僚とのコミュニケーション円滑具合は、「そう思う」(29.5%)と「ややそう思う」(54.0%)との合計値が、83.5%。一方「そう思わない」(2.6%)と「あまりそう思わない」(13.9%)の合計値が16.5%で、円滑に思う方が67ポイント上回った。
- 性別による差はあまり見られない。
- 年代別に見ると、年齢が上がるとともに「そう思う(円滑)」の比率が下がる。この傾向は男女ともに見られる。
- 男性を年代別に見ると、年代が上がると、コミュニケーションが円滑だと思わない比率が増える。

Q15.あなたと職場の先輩・同僚とのコミュニケーションは円滑ですか？



部下・後輩とのコミュニケーション

- 部下・後輩とのコミュニケーション円滑具合は、「そう思う」(26.0%)と「ややそう思う」(57.1%)との合計値が、(83.1%)。一方「そう思わない」(3.5%)と「あまりそう思わない」(13.4%)の合計値が(16.9%)で、円滑に思う方が66.2ポイント上回った。
- ※ このページのデータは、すべて「部下、後輩はいない」を除いた値。

Q16.あなたと部下・後輩とのコミュニケーションは円滑ですか？

